



# 無麻酔スケーリング問題を考える

## 無麻酔での歯垢・歯石除去と デンタルケアを目的とした製品による 歯の併発症に関するアンケート結果

Questionnaire on the co-onset of teeth by products for the removal of plaque and tartar without general anesthesia and dental care

本田 洋

Hiroshi Honda, D.V.M.

本田動物病院



1981年3月麻布大学卒業。1984年3月鹿児島県鹿児島市にて本田動物病院を開院し、院長を務める。日本動物臨床医学会評議員、歯科企画実行委員。日本小動物歯科研究会理事。日本獣医皮膚科学会オーガナイザー認定医。

### はじめに

日本小動物歯科研究会（以下、歯科研究会）は2015年、会員に対するアンケート調査を行い、無麻酔での歯石除去の実態と、それに伴う動物の口腔を中心としたトラブルの状況に関し把握することを試みた。そのなかで多くの問題点が指摘され、多数の不適切な行為による事故と思われる報告を取りまとめた。アンケートに回答があった713施設のなかで、無麻酔での歯石除去と思われる行為が確認されたのは43施設（6.2%）であった（図1）。そして、そのうち、有害事象と思われる回答があったのは、18施設（回答数に占める割合：43.9%）であり、無麻酔歯石除去における問題は決して多く認識されていたわけではなかったといえるかもしれない。しかしながら、報告された内容は深刻なものであり、改めて無麻酔での歯石除去の危険性と医療としての有効性の低さを指摘しなければならず、厳に慎むべきであることを歯科研究会として発信したところであった。

にもかかわらず、その後その状況は改善されるどころか、むしろ無麻酔での歯垢・歯石除去が行われるケースは、さらに増加していることすら推測される現状がある。このたび歯科研究会はさらに詳細な情報を集めるべく、再度会員に対するアンケート調査を行った。その結果、前回調査時より会員数が増加している現

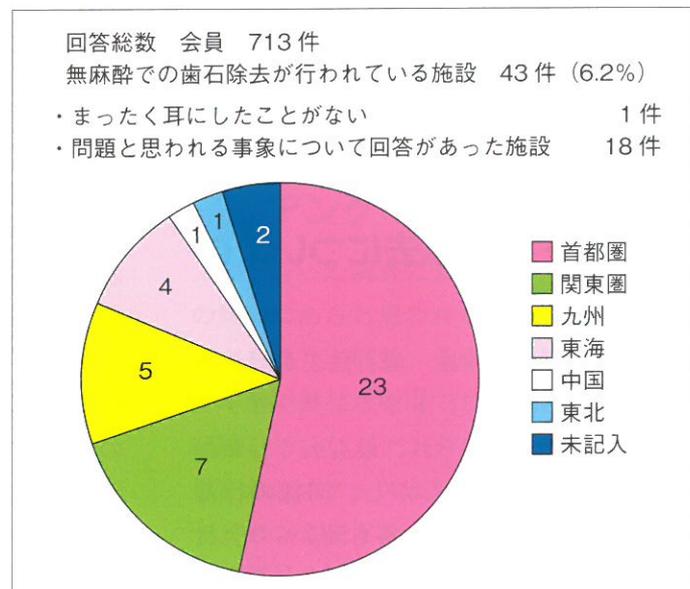


図1 2015年アンケート調査結果

調査対象 会員 732名  
回答総数 172件 (23.4%)

- ・調査期間 2019年6月～8月
- ・全体で172施設から回答を得た
- ・このなかで無麻酔下歯石処置のトラブルに関するものは97施設(13.3%)から寄せられた
- ・回答数に占める割合は、56.4%であった
- ・施設・有害事象については複数回答
- ・有害事象の内容も多岐にわたった

図2 2019年アンケート調査結果

状はあるものの、驚くべきことに172施設から無麻酔での歯垢・歯石除去に関する情報が寄せられた。そのうち有害事象を認識している施設は前回調査に比較して5倍以上となる97施設から回答が寄せられた(図2)。このことは、おそらく無麻酔での歯垢・歯石除去を行う施設そのものが増加していることに他ならず、今後も様々に同じような現象が発生することを予測させる。加えて、飼い主の間に無麻酔による歯垢・歯石除去を受け入れる素地があるということは、獣医師側から、このような行為の危険性が十分に飼い主に伝えられていないことをも推測させる。しかし、無麻酔での歯垢・歯石除去は大変に危険な行為であり、前回調査にも増して今回の調査結果はこの側面を明らかに示している。獣医歯科診療を提供する施設のすべての人々が、この現実を十分に理解するべきであると考えられる。

また近年増えつつある、デンタルケア製品を原因とすると思われる破折などの歯の損傷に関してもあわせて調査を行い、いくつかの知見を得ることができた。そのこともふまえて、獣医歯科診療の現場で正しい知識を飼い主に伝えることが、いかに重要であるかを今一度認識してもらうために、以下アンケート調査結果を報告する。

## 無麻酔歯垢・歯石除去についてのアンケート調査

まず、どこで無麻酔による歯垢・歯石除去が行われているかに関する問いにおいて、トリミングショップとの答えが回答者の79%から得られ、最も広く行われていることが判明した(図3)。しかし、同様の行為が動物病院で行われているという回答も58.7%の会員から得られ、ペットショップで行われていると答えた48.1%を上回った。

「無麻酔での歯垢・歯石除去は、どこで行っていましたか？」に対する回答

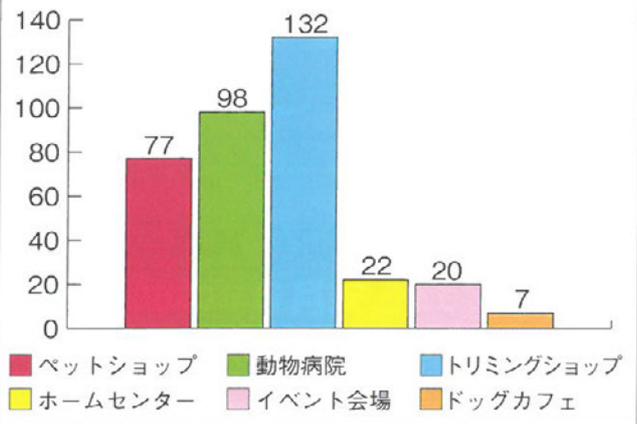


図3 実施施設に関する調査結果

「無麻酔での歯垢・歯石除去を誰が行っていましたか？」に対する回答

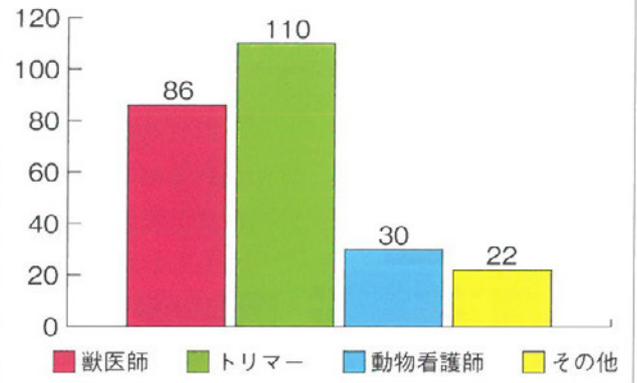


図4 施術者に関する調査結果

次に、誰がこの処置を行っているかという質問に対し、回答者の71%がトリマーと回答しており、とくにトリミングの場においてこのような処置が横行していることが把握できた。ただ、この問いにおいても55.5%の会員が獣医師が無麻酔による歯垢・歯石除去を行っているという回答を寄せており、獣医師の意識の低さも大きな問題と思われた。また、動物看護師が行っているとの回答は19.4%あり、今後国家資格となるにあたり、動物看護師にもコンプライアンス意識の徹底が必要不可欠であると痛感させられた(図4)。

さらに「無麻酔での歯垢・歯石除去は行うべきでない」と答えた会員が80%を超えたにもかかわらず、「その行為を医療行為と考えるか」という問いに対しては、「そう思う」と答えた獣医師はおよそ50%であり、獣医師のなかにも十分に統一した見解が用意されていない状況がうかがわれた。この点に関しては、質問上の会員内の意思統一が不十分であったことが見受けられ

2015 調査:「ペットショップ、動物病院、トリミングショップ、ホームセンターといった施設における具体的な歯科に関する有害事象に遭遇したことがある」に対する回答

- はい 18件 (43.9%)
  - ・下顎の脱臼・骨折
  - ・歯冠破折・歯の動揺・歯周病悪化
  - ・歯肉損傷・口鼻瘻管・根尖膿瘍
  - ・体調不良・他部位の整形外科疾患の発症
  - ・性格変様・自宅でのケアが不能になった
  - ・口臭・くしゃみの持続 など
- いいえ 23件 (56.1%)

図5 2015年事故に関する調査結果 (一部)

た。すなわち、無麻酔での歯垢除去という行為を、家庭での日常デンタルケアと捉え、医療行為ではないと判断したと解釈される意見が多数みられた。質問者側としては、あくまで麻酔を必要とするレベルの歯垢除去を対象に、実態を把握したいと考えたアンケートのつもりであったが、そのような視点の相違で曖昧な結果となった。この点を踏まえ、今後無麻酔での歯垢除去についても、歯科研究会としての統一見解を示すべきと考えられる。

図5ならびに図6において、前回(2015年)調査結果と今回の結果を比較した。今回は無麻酔での歯垢・歯石除去時の事故や合併症に関しても、件数・事故内容ともに前回に比して膨大な回答が得られており、この行為の危険性がさらに深刻化していることが確認された。とくに顎骨の骨折や歯の破折について多くの会員が経験しており、改めてこのような行為が行われないうための警鐘を、社会に発信し続けていかなければならないと感じた。

以下に、報告のあった主な事例を一部列記する。

- 下顎骨の骨折
- 歯周病の悪化
- 歯の破折
- 口腔内裂傷・出血
- 四肢の骨折・脱臼(強制的な保定が原因と思われる)
- 肺炎・心不全の発症
- 術後に死亡

無麻酔での歯垢・歯石除去に関する有害事象に遭遇したことが「ある」と回答した人は、具体的に述べてください(複数可)。

歯周病の改善がみられないもしくは悪化した	27
口周囲を触らせなくなった・歯周病確認の遅れ	23
口腔内粘膜などの損傷・出血(輸血を必要とする)	19
下顎骨の骨折	18
歯の破折	12
口腔鼻瘻を発生	4
歯の脱臼	3
<b>歯科領域関連</b>	<b>合計 106</b>
股関節脱臼・椎間板ヘルニアなど	13
処置後心不全症状・腎機能異常・食欲不振	4
処置中・処置翌日に死亡	3
誤嚥性肺炎・細菌性肺炎	2
処置後攻撃的な性格になった	2
異物(破折したハンドスケーラー先端)誤飲	1
眼圧上昇	1
<b>歯科以外の領域</b>	<b>合計 26</b>

図6 2019年事故に関する調査結果 (一部)

「デンタル用製品やその他のもので、歯の破折症例をみたり、きいたり、経験したことがありますか?」に対する回答

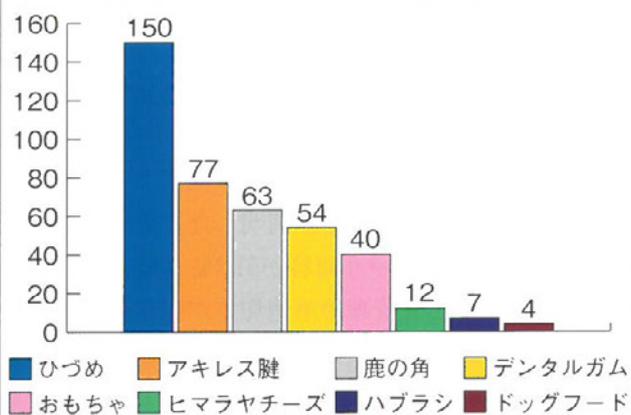


図7 破折原因に関する調査結果

## デンタルケア製品に関するアンケート

今回行った調査において、歯科研究会では最近増加の傾向にあると思われるデンタルケア製品に関する問題点も取り上げた。多くの会員が、身近で様々なデンタルケア製品が原因でおきたと考えられる歯の破折を経験していた。デンタルケアを目的に与えたものが破折をおこすケースとしてはひづめが圧倒的に多かったが、デンタルガムが原因となったとする回答も54件あり、製品の選択を誤れば取り返しのつかない事態となることを飼い主に認識してもらう必要が大いにあると

## 無麻酔スケーリング問題を考える

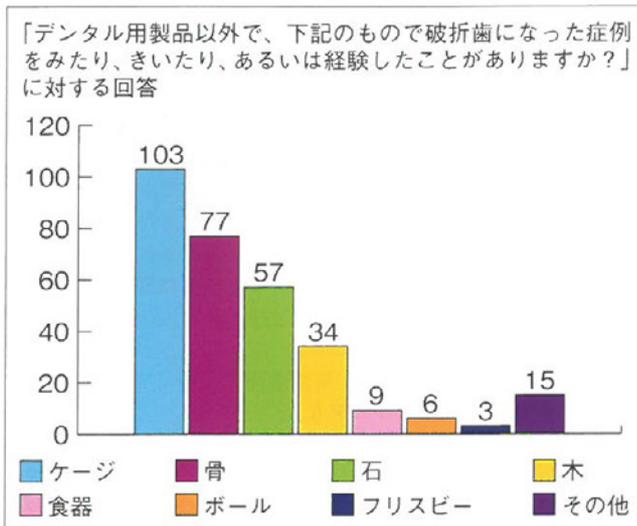


図8 破折原因に関する調査結果

感じられた (図7)。しかし残念ながら今回の調査において、原因と思われるデンタルガムの種類について触れた回答は皆無のため、どのような製品が事故につながっているかは不明である。ただ、そのような事故につながる製品が獣医師からすすめられたものであったのであれば、飼い主からの情報として寄せられる可能性が高いと思われたが、その指摘は確認できなかったと認識している。

また、デンタルケア製品以外の原因による歯の破折事故も、多発していることが判明した。飼い主が与える骨が原因であるという回答が51.3%と最も多く、獣医師は、日常の飼育管理の不適切さが引き起こすものであることを飼い主に伝えていくべきであると認識する必要があると思われる (図8)。いずれの破折においても、破折歯としては上顎第4前臼歯が最も多発しており、過去に行われた報告と一致していた。犬が硬度の高いものを噛むときは、必ずそのような事故の危険性があることを、飼い主に認識してもらうことが何より重要であることはいうまでもない。獣医療にかかわる者たちがこの点に関し共通認識をもち、機会あるごとに危険性について伝えていくことが、このような事故を防ぐ唯一の方法と思われる。

これまで一般的には、中・大型犬において比較的歯の破折が多いと考えられてきたが、会員の回答では小型犬でも数多くの破折を確認していることがわかった。これも飼い主が与える不適切なデンタルケア製品が問題をおこしている可能性が高く、デンタルケアに関する正しい知識をもってもらうしか解決できないのではないかと考える。年齢的には、「若齢時におきた」

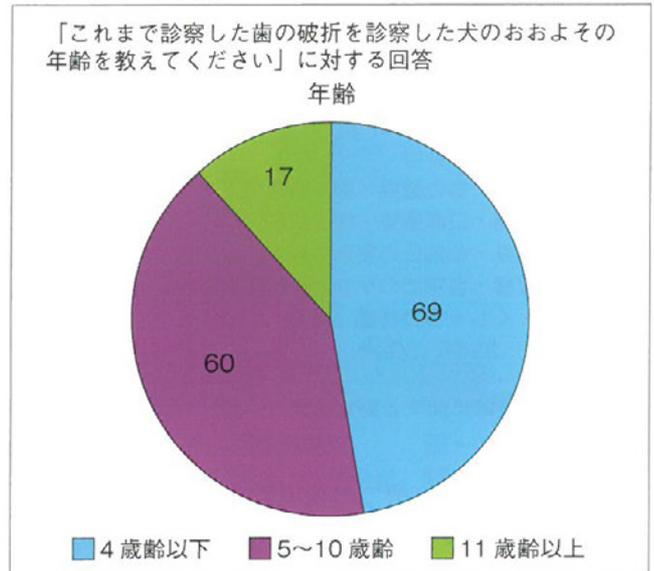


図9 破折時年齢に関する調査結果

という回答が最も多く、若い個体に接する飼い主の方に、この点も十分に啓発をすることが重要であると思われた (図9)。

今回のアンケート調査で歯の破折は、交通事故などでおこるより、何かを噛んでいておこるものが大多数であった。ゆえに、何をどう与えるかを慎重に考えていただけるように、飼い主へ情報提供を行うことが獣医療従事者の大きな責務であると結論づけられる。

## おわりに

今回、我々の歯科研究会において無麻酔での歯垢・歯石除去およびデンタルケア製品に関するアンケート調査を行った。2019年時には会員から172件の回答が得られ、多くの知見を得ることができた。2015年に行った同様の調査に比べ、発生件数は格段に増加し、看過できない問題が多々おこっていた。今回のアンケート調査において、改めて無麻酔での歯垢・歯石除去における危険性が浮き彫りとなり、このような行為の蔓延を阻止すべく、歯科研究会としても社会全体にこのことを周知する必要性を強く感じた。

あわせて行ったデンタルケア製品に関するアンケート調査においても、飼い主が何気なく与えた製品や一般家庭にある身近なものが、犬たちにとって大きな害になる危険性も少なくないことが確認された。これらの事実は、一般の飼い主に伝えられていくべきことであり、予防歯科の意識を高めると同様に、事故などを未然に防ぐ取り組みを、獣医師を含めた動物病院ス

スタッフが、その責任を負う存在として今後さらにすすめていく必要があると思われる。

歯科研究会として今回の会員からの回答内容を重視し、今後の会運営においてもよりよい歯科治療やデンタルホームケアが行われていくように、適切な情報発

信にこれまで以上に努めていきたい。また、農林水産省などにこの結果を報告し、行政との情報共有をすすめていかなければならない。このような行為が、今後無麻酔によるスケーリングが増加せぬよう働きかけていくうえで必要であると痛切に感じている。

## News

### 日本獣医救急集中治療学会 マスクドネーションセミナー開催

日本の獣医療における救急／集中治療分野の確立と教育・研究を行い、日本から世界へと発信していくことを目的に立ち上げられた一般社団法人 日本獣医救急集中治療学会（JaVECCS）は、今回の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、5月24日（日）に「救急ライブカンファレンス」中村篤史先生・塗木貴臣先生（TRVA）、さらに5月26日（火）に「エビデンスで語る、救急診療」川瀬広大先生（札幌夜間動物病院）、上田 悠先生（ノースカロライナ大学）のテーマによる、マスクドネーションセミナーを開催した。

本セミナーは医療現場の最前線に立つスタッフへの支援を目的として行われた。

支援方法は、500円を募金し、オンラインセミナーを受講するスタイル。集まった募金は、事前に獣医療関係者へ実施したアンケート結果を参考に、医療現場で必要とされる物資を購入し、直接発送。

本ドネーションセミナーに先立って5月20日（水）には「各救急施設におけるCOVID-19対策事例」と題し、本ドネーションセミナー開催に向けて事前実施したアンケート結果の発表や、本セミナーのシステムの説明を行った。

ドネーションセミナーの最終日には、受講者数約500人・募金総額約25万円であったこと、アンケートをもとにした寄付内容、および寄付の送付先が発表された。

アンケート結果は下記より閲覧可能。

<https://www.event.javeccs.com>

[https://5517777d-ba7c-437a-92c8-f4e13c629f0f.filesusr.com/ugd/43c891\\_607c3b2b4a83494c8f6f848041409cc0.pdf](https://5517777d-ba7c-437a-92c8-f4e13c629f0f.filesusr.com/ugd/43c891_607c3b2b4a83494c8f6f848041409cc0.pdf)



セミナーの様子